

国立公文書館の機能・施設に関する基本構想に係る主な論点

所蔵する文書を広く利活用してもらうため、国立公文書館にはどのような機能・施設が求められるか。

- ① これまで歴史公文書等を利用してこなかったユーザー層を獲得し、その満足度を高めるためには、どのような機能・施設を充実させることが必要か。
- ② 研究者など、より専門的な利用者にとっての利便性を向上させる観点から、どのような機能・施設を充実させることが必要か。



閲覧室



閲覧室カウンター

【現状】

- 本館閲覧室は約340㎡で、40名が同時に資料を閲覧可能(満席となる場合もある)。利用者は研究者層(学生や教職員など)が多く、研究や論文執筆での来館目的がほとんどを占める。
- 出納には、1件につき10分程度の待ち時間。
- つくば分館の所蔵資料を本館で利用することができるが、事前予約制(1回につき5冊まで)となっている。
- 利用時間は平日及び第1土曜日(1月を除く)の9:15~17:00。
- 利用者自らが目録やデータベースを利用して検索して申込み(レファレンスは利用方法、検索方法に関するものが多数を占める)。
- 文書を理解するための基礎的な知識、原本の取扱いなど、利用者へのガイダンスやリサーチ支援は行っているが十分ではない。
- 文書の内容をより深く理解し、分析を進めるためのツール(参考文献等)や場所が整備されていない。
- デジタル化の進展(遠隔地からの利用)と来館利用のバランス。



【課題と対応策】

○ 閲覧室の拡張・専門室の設置

- ・・・利用者の増加を念頭に、快適性・利便性にも配慮しつつ、文書の形態・サイズに応じた什器の選択や、バリアフリー環境を強化。

○ 出納システム・動線の合理化

- ・・・文書の排架、書架の配置、施設内の輸送動線の見直し。

○ 開館時間の延長

- ・・・平日フルタイム勤務のユーザー層へのアピール。

○ 検索システムの開発

- ・・・一般利用者のためのインターフェース等の整備、テーマ別検索ガイドの充実。

○ レファレンス・ガイダンスの体制

- ・・・レファレンスカウンターの整備、巡回ガイドの配置、定期ガイダンスの開催。

○ ライブラリー・研究設備の充実

- ・・・専門的なニーズにも耐えうる参考文献等の閲覧設備、共用研究室の設置。

○ 来館利用に係る付加価値の向上

- ・・・他館を含めた一体的な検索や情報提供サービス、利用者相互が意見や情報を交換するためのセミナールーム等の整備。

【参考】 フランス国立公文書館

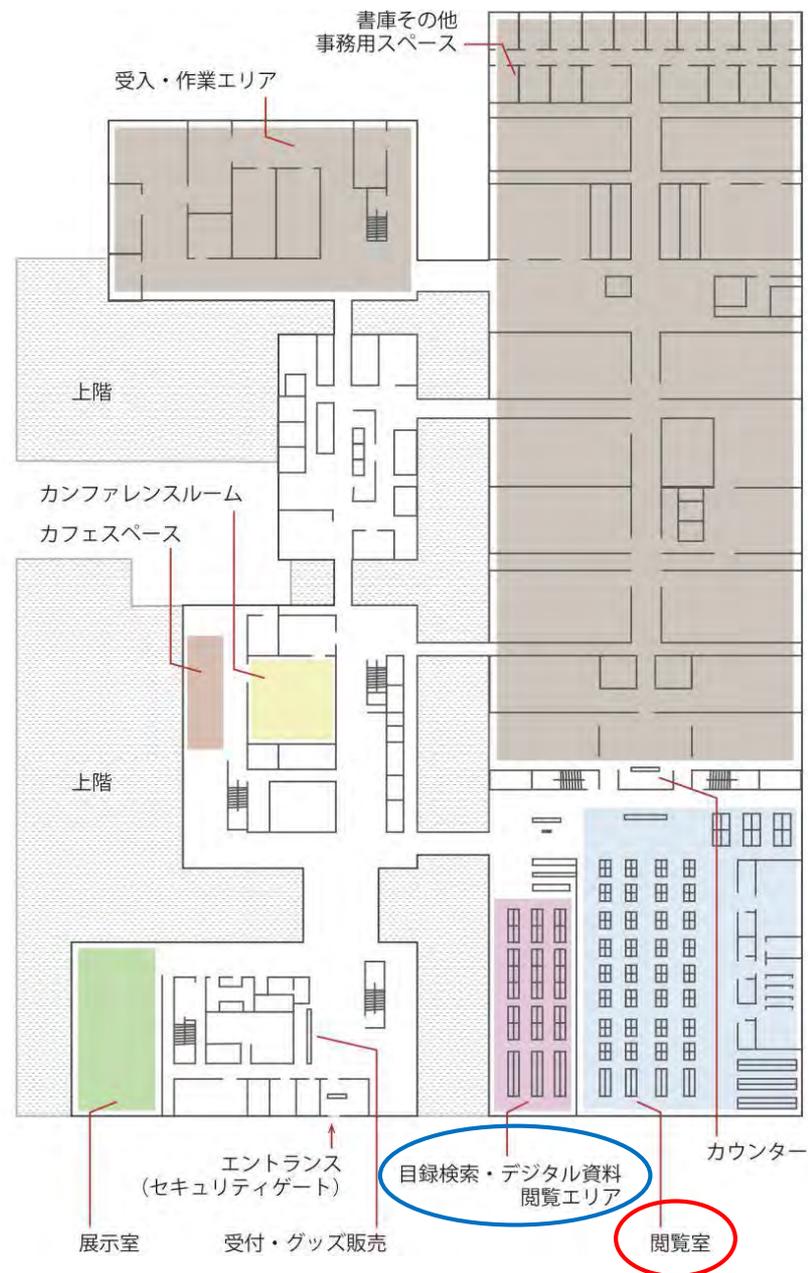


フランス国立公文書館ピエールフィット館においては、約1,400㎡、160席の広さの閲覧室と、512㎡、84席の目録検索・デジタル資料閲覧エリアを設けている。

また、閲覧室と書庫の間にカウンターを設け、スムーズな動線を確認し、利用者の利便性、満足度の向上を図っている。



閲覧室



ピエールフィット館1階平面図

【参考】イギリス国立公文書館



イギリス国立公文書館においては、原本文書を閲覧できる閲覧室とは別に、一般の利用者でも個人のパソコン等を持ち込み、自由に調査研究できるスペースとして、調査エリアを設けている。

また、レファレンスカウンターとして、軍事、海事、家系と政治、経済、社会、歴史とに分けて問合せデスクを設けている。

さらに、ファミリーレコードセンターや、別フロア(3階)に地図・大型資料閲覧室を設け、利用者の利便性、満足度の向上を図っている。



閲覧室のリサーチャー

＜アメリカ国立公文書記録管理院 新館＞

アメリカ国立公文書管理記録院新館においては、吹抜け式の開放的な閲覧室(390席)が設けられ、利用者の快適性に配慮している。



2階からの閲覧室の様子

＜ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館＞

ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館においては、大規模なフォーラムなどが開催可能な講演室が設けられ、利用者相互の意見・情報交換が可能な空間が整備されている。



数百人を収容可能な講演室

【参考】イタリア国立中央文書館

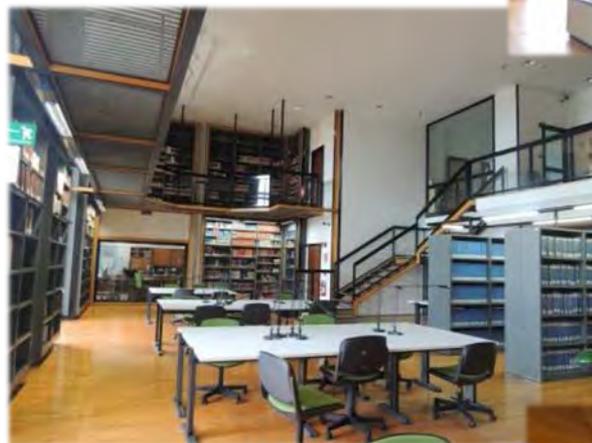


イタリア国立中央文書館においては、ライブラリーが資料閲覧室を兼ねるとともに、共用研究スペースも設けられ、専門的な利用者の利便性に配慮している。

また、アトリウム・講堂では所蔵資料を活用する企画にスペースを提供するなどして、利用者相互の意見・情報交換が可能となっている。



壁面棚に多くの蔵書を
開架する図書室兼閲覧室



閲覧室の並び(写真奥)に
共用研究スペースを設置



アトリウム・講堂